



上川井だより

令和 2 年 5 月 7 日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎真紀子

5月号

決める力 続ける力

風薫る爽やかな季節となりました。今年は、そうした春を存分に楽しむこともできず、保護者の皆様、地域の皆様も日々ご苦労を重ねていらっしゃると思います。

先日、スーパーへ買い出しに行ったところ、道に「こいのぼり祭り中止のお知らせ」という看板が掲げられていました。スーパーには、「こどもの日をお寿司でお祝いしよう」とポスターが飾られ、鮮魚コーナーにたくさんの手巻き寿司が並べられていました。それを見て、子どもたちは家でどんなこどもの日を迎えているのだろうと思いました。外出自粛が続き、我が家では親子の会話が増え、一緒に家事に取り組む時間が増えましたが、小さなお子さんや小学生を抱えたご家庭は、時間をやりくりし、リモートワークをするのにも大変なご苦労をされていると思います。緊急事態宣言の延長とそれに伴う休校延長の知らせに、やむを得ないと思う反面、一体いつになったらこれまでの生活に戻れるのだろうと考えずにはいられません。その中で、子どもたちを励まし、学習をサポートしてくださっている保護者の皆様に感謝しております。3月は、急に休校が決まり、やり残したことは無いのか、卒業式や修了式はあるのかといった気持ちで過ごし、4月は2週間ずつの通知に従い、復習に励みながら再開を心待ちにして過ごしたことでしょう。では、5月は一体どうすればよいのでしょうか。長すぎるお休みに子どもたちは、体も気持ちも緩みがちで何を目標に頑張ればよいか分からなくなっているのではないかと思います。

今回の感染症も、思いもよらない結果を招きましたが、これからは、予測し得ないことが起こる時代だと言われます。技術の革新、グローバル化によって職業も淘汰されると声高に叫ばれています。こんな時代に子どもたちがつけなければいけない力とは何か、そして、その中でこの5月に取り組めることはないかと今一度考えてみました。

インターネットの普及によって、子どもたちの生活を大人がすべて把握し管理することは難しくなっています。折しも感染症リスクに備えて、ICTを活用した学びが加速度的に進められています。子どもたちは、見えないリスクにさらされながら学び、生活していくこととなります。そうした社会では、子ども自身が考え試行錯誤し問題を解決する力、人を受け入れ人と折り合う力がとても重要です。

そこで、まず今月は第一歩として、自分でできることを見つけて続けていく力を目指しましょう。大きな目標でなくてよいのです。年齢相応に、お兄ちゃん、お姉ちゃんの頃はこれくらいできたと言っただけでよいのです。できそうなことを自分で決めることが大切です。すぐに飽きてしまうこと、背伸びしなくてよいことは続きません。続けていけそうだという見通しを持つことが大きな力になります。特に、休業期間中は自分を律することが難しいものです。4月の経験を踏まえてできそうなことを見つけてみましょう。困ったら、学校に相談してください。学校のポストに投函して下さっても、校庭開放の時間に学校へ来て相談することもできます。上小ホームワークを毎日欠かさず続けられたお子さんには、是非大いに褒めて自信をつけてあげてください。お手伝い、工作、読書、体力作り、漢字、計算、栽培、日記、音読・・・身の回りに目を向けて探してみしてほしいと思います。音読に挑戦する場合のポイントは本日配付の資料を参考にしてください。

学校が再開したら、どんなことに取り組んだか、続けてみてどうだったかみんなでご報告し合いたいと思います。その日を楽しみに、私も目標を決めて毎日取り組みたいと思います。